

令和元年度第3回白石市総合教育会議 会議録

- 1 招集日時 令和2年3月11日(水) 午前10時
- 2 招集場所 白石市役所 防災センター2階 会議室
- 3 出席委員 白石市長 山田裕一、教育委員 佐藤敏義、教育委員 佐藤よし美、
教育委員 岡崎美弥子、教育委員 小室秀一
- 4 説明のため出席した者
弁護士 村上敏郎、宮城教育大学教授 佐藤哲也、
第一幼稚園保護者代表 会長 佐藤智美、副会長 鈴木望、
第二幼稚園保護者代表 会長 佐藤宏子、副会長 古山まどか
手をつなぐ育成会 会長 巨泉猛、第一幼稚園を残す会 疋田秀應、齋典子、
小片琴子
- 5 事務局出席者
教育委員会事務局
委員 教育長 半沢芳典
学校管理課 課長 小室英明 上席参事 高橋大介 課長補佐 相原宏一
課長補佐 佐藤哲生 係長 後藤順子 主査 櫻井知
総務部 総務部長 山家英男
保健福祉部 子ども家庭課 課長 佐藤純哉 係長 佐久間詳子
- 6 開会時刻 午前10時
- 7 協議事項 本市における幼児教育の充実について
- 8 閉会時刻 午後00時03分

(午前10時00分開会)

- 小室課長 定刻になりましたので、ただいまから令和元年度第3回白石市総合教育会議を始めさせていただきます。私は、学校管理課長の小室と申します。
今回の会議は、政府の新型コロナウイルスへの感染拡大防止の要請を受けて、傍聴の方にご遠慮いただくことをご了承いただきたいと思います。
なお、本日の、会議の時間は概ね2時間ということで予定しており、時間がまいりましたら終了となります。それでは開会にあたりまして山田市長よりご挨拶申し上げます。
- 山田市長 第3回総合教育会議開催に当たりまして、お忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。
本日は3月11日でございます。東日本大震災から丸9年が経過いたしました。当市でも2時46分に市民の皆様へ黙とうの呼びかけをしています。震災のことを思

い出すと辛い体験をされた方が本県にも多くいらっしゃいます。生きたくても生きられなかった多くの皆様の御霊を思うときに、我々の成すべきことは、精いっぱい生きて次の世代にしっかりと引き継いでいくことだと思っています。本日も前回に引き続き、「本市における幼児教育の充実について」をテーマに進めさせていただきます。これまで2回の会議で皆様には、様々な角度から忌憚のないご意見をいただいているところでございます。前回の会議中、各種資料提出の依頼がありましたので、お手元にお配りさせていただいております。後ほど、担当より説明いたします。本日の会議は新型コロナウイルス感染予防のため、傍聴をお断りし、開催させていただくこととしております。ご丁承いただきますようお願いいたします。皆様の忌憚のないご意見をお聴かせいただければと考えております。

議長選出

小室課長

それでは会議に入りたいと思います。議長選出でございますが、当会議につきましては「白石市総合教育会議運営要綱」第3条の規定により市長が議長となり、会議の進行をすることになっておりますので、ここからの進行は山田市長をお願いいたします。

山田市長

それでは、議長を務めさせていただきますので、よろしくをお願いいたします。なお、発言される場合には挙手をいただき、不規則な発言等はお慎みいただくようお願いいたします。

意見交換

山田市長

本日の会議のテーマは、第1回目、第2回目の会議に引き続き「本市における幼児教育の充実について」ということで進めさせていただきたいと思います。それでは次第4の意見交換に入りたいと思います。

半沢教育長

おはようございます。前回の会議の中で、「防災面」や「登園時・迎えの際の交通条件」、「駐車場」などについて比較検討できる資料を提示させていただきましたが、加えて「避難場所の距離」「避難経路」「有事の際の避難に関する資料」を示してほしい旨のご意見をいただいておりますので、事務局よりご説明申し上げます。

高橋上席参事

別紙「安全管理に関する資料」に沿って説明

山田市長

ただ今、事務局から第一幼稚園と第二幼稚園それぞれの「避難場所」や「避難経路」などについて説明をさせていただきました。まず、この件について意見交換をお願いしたいと思います。初めに、佐藤教授からお話をいただければと思います。

佐藤教授

中学生の保育教育施設における防災教育に関して、以前雑誌に書いたことがあります。全国国公立幼稚園長会が出している「幼稚園時報」というものがあります。現在は名称が変わって、全国国公立幼稚園こども園長会の「幼児教育じほう」です。東日本大震災から5年目の1月に、防災教育の特集を組んでいただきました。私と東北大学の臨床心理学の本郷先生と二人で書かせていただきました。本郷先生は主に、子どもと教職員と保護者の心のケアという観点から書きました。私は、幼児教育学者という立場から、教育、保育の実践という意味で、どうしたら常日頃から、いざという時に備えられるかについて書きました。また気仙沼にフィードワークに入り、その後どういった防災保育に取り組んでいるのかをまとめました。その時にポイントとなるのは、幼児期の子どもです。子どもの

心にトラウマを与えてはいけませんが、リアリズムを追求していかなければいけません。私個人の実感ですが、我が家では猫を二匹飼っています。猫はよく道路で自動車にひかれます。あのような非常に俊敏な動物がなぜはねられるのか。恐怖を感じると猫はその場で、固まってしまうのです。これは幼児も一緒です。恐怖を感じたとき子どもは、本能的にその場で立ち止まって、わっと泣きます。恐怖を感じた子どもが黙って、自分勝手にどこかにうろうろと逃げてしまえば、周りの大人が救えません。そこにとどまってくれるから救いの手を差し伸べることができるのです。自己保存の本能なのだかと捉えています。幼児の場合でも、本当に恐ろしいことがあったら、泣き出してその場で固まってしまいます。中にはパニックでどこかに逃げ出してしまう子もいると思います。気仙沼の場合では、大きな音を放送で流します。地震が起こった際の椅子や机や柱がきしむ音を再現します。子どもがその場で騒いだり固まったりしないように、パニック状況の中でも、担任の教師の指示にしっかり耳を傾けて、しかるべき対応をとることができるように毎月行っています。もう一つは、園だけでは対応できないことがたくさんあります。地域の住民の方が、幼稚園、保育所の子供たちの先生や子供たちに関心を持っていただく。必要に応じて緊急事態でもサポートをしてくださる、心の準備をしていただくために、防災保育訓練の時には、地域の方々にも呼びかけや参加をしていただく体制をとりながら、災害や不審者等に備えていくことを心掛けて実践されていきました。昨年、石巻の大川小学校の裁判が最高裁から高裁に差戻され結審しました。計画をしっかり立てるとともに、実効性を検証していくことが学校や市町村、都道府県に求められている時に、今日のような総合教育会議で取り上げられ、いろいろな意見を出して集約し、それをまた現場に返していくのは、非常に意味があると思います。第一、第二幼稚園のそれぞれ取り組みがされている中で、特に別紙1、別紙2で子どもの動線をきっちり想定しながら安全を確保していく、しっかりと想定されているのが大事なことです。私が見て感じたことは、長所は短所、短所は長所だということです。例えば第一幼稚園は二階建てです。何かあった時に、二階から一階へ下りてくることもあると思います。遊戯室で活動していた時に、災害が起これば階段を下りていかなければいけません。一階の保育室で活動していた時に、二階が崩れてくることもあるかもしれません。堅牢に造られているのでそういうことはないかもしれませんが、二階建ては、そういったリスクが考えられます。だけれども鉄砲水が来た時には二階に避難することができます。これは長所です。もう一つ第一幼稚園の場合は、隣に小学校があります。何かあった時は小学校に避難することができます。それに対して第二幼稚園の場合は、園舎の造りが平屋ですので、子どもの動線が確保しやすいです。園庭に避難し、必要に応じて中学校に避難することができます。ここで危惧されるのは、メインストリートを横断しなければいけません。災害が起きた時は、名取の閑上のように自家用車で避難します。車が道を塞いだり、パニックを起こし猛スピードで行き来するような所を、本当に横断できるのかどうか懸念されます。ただし、中学校に避難した場合、日頃、白石中学校と第二幼稚園の連携や交流が円滑に進んでいれば、幼稚園児に対して中学生が、援助の手を差し伸べてくれます。中学校では2年生がキャリア教育の一環と

して、幼稚園、保育所でボランティア体験をします。幼い子に対する愛着、憧れの対象、発達モデルとして自分たちが園児達から、憧れの眼差しを注がれている。そういった園児達に何かしてあげたいという思いが中学生では育っていません。大変な時期だからこそ中学生が自分達の命を守り、なおかつ園児達をケアしていくというような異年齢の交流も期待できます。子ども達にとっても危機だからこそ成長の可能性に繋がっていきます。私は第一幼稚園、第二幼稚園それぞれ長所、短所があるので、ピンチの時にチャンスに変えていけるように、何よりも大事な幼児の命を守っていけるような、可能性、ポテンシャルを考えているのだなと受け止めました。

山田市長 ありがとうございます。それでは順にご発言をお願いします。弁護士村上先生お願いいたします。

村上弁護士 防災管理マニュアルの計画を見て感心いたしました。ミサイルの訓練、蔵王山噴火まであり驚きました。第一幼稚園、第二幼稚園ともお互いいいところを取り入れつつ、これからもやっていけばいいのかなと思います。構造的な問題については、佐藤先生のご指摘のとおりだと思います。大変詳しくご説明いただきました。一長一短あるのだらうと思います。私はどちらにせよ、最終的には災害があった時に、保護者への引き渡しまでなのか、その後の何かが必要なのか疑問ですので、後で教えていただきたいです。佐藤先生がおっしゃった、大災害時に中学校まで行くというのは大変でしょう。中学生に行動してもらえるとというのもそのとおりだと思います。それぞれいいところ、悪いところがあるのだらうというのが感想です。

山田市長 ありがとうございます。村上先生から引き渡しまでのキーワードが出ました。教育委員会でマニュアルや考え方を教えてください。

半沢教育長 どこまで子ども達の命を守るという部分で考えるのか、ということへのお尋ねについてお答えいたします。大川小学校の仙台高裁での判決が確定するまで県や石巻市は上告をしていました。この主な争点は事前防災です。厳しい内容でした。現場に対してそこまで要求していいのかということで、最高裁に上告したというように私は認識しております。最高裁で確定したので、事前防災は非常に重要です。教育委員会としてもこの判決を重く受け止めています。現在宮城県では、専門家の皆様にお集まりいただき、今後の学校防災、幼稚園も含みますがどうあるべきかを、三回程度の会議で議論しています。結果に基づき、学校の防災の見直しをせざるを得ない状況になるのだらうと思います。ハザードマップで危険区域でないからいいとか、悪いとかというレベルでは通用しないと、教育委員会では認識しております。今まで大川小の問題が起こるまでは、引き渡しまでという考え方でした。しかしながらあの災害では、引き渡した後にも、津波で命を失われた親子がいらっしゃるというのは、非常に重要だなと思っております。今後は、今年の台風19号もありますが、より早く判断せざるを得なくなると思います。今日お示しした、第一、第二、第三避難場所というような順を追うのは計画上必要ですが、もっと早く子どもの命を第一に考えて幼稚園、小学校、中学校も対応せざるを得ないと思います。例えば、台風19号の時白石は、二期制でしたので子ども達は学校にはおりませんでした。そういったことが予想されるのであれ

ば、事前に臨時休校等の措置をとらざるを得ないだろうと。子どもの命を第一に考えると、今回の新型コロナウイルスの件では、保護者の皆様にご迷惑をおかけしているのは重々承知しております。一定程度予測ができるものは事前に、そのような措置をとらざるを得ないと。そうすることが子ども達の命、健康、安全を守るのに必要不可欠になってくると考えております。したがって、結論を申し上げると、引き渡したから終わりという感覚は持ってないと認識しております。

山田市長 ありがとうございます。次に手をつなぐ育成会会長の巨泉様ご発言をお願いいたします。

巨泉会長 安全管理についてを、見させていただきました。第一、第二それ相応の対応をしているのは分かりました。その中で避難場所ですが、障害児に対する避難時のサポートがどうなっているのか、専任制でいるのか。障害を持っている子は、その場から動かなくなる子、逆に大声でパニックになる子もいます。車いすの子もいます。そうなった時専任でいるのか。急に誰かが手を差し伸べても信頼関係がないと逃げたりもしません。日頃から保育の中で専任制をとることができるのか、サポート体制がどうなっているのか、資料にはなかったのでお聞きしたいです。

山田市長 専任制について、支援員など障害を持っている子へのサポート体制について説明をお願いします。

高橋上席参事 それぞれの園に支援員が配置されております。支援員の先生が専任で対応するというようになっております。

疋田氏 安全管理の資料はとてもよくできていますし、分かりやすく、こういう資料ができているのは、常日頃安全管理について考えているというのを感じました。幼児教育の充実という意味で一つご提案があります。入園する親御さんにも同じような資料を毎年渡すことをしていただければ、入園させる側も安心すると思います。安全に対してこれだけ気を付けているのが分かれば、幼稚園との信頼関係も築けると思います。第二幼稚園から白石中学校までの避難経路が難しいのであれば、古典芸能伝承の館に避難するようなことは想定しているのでしょうか。少し高台になっていますが、別な公共施設へ避難できるような体制をとっているのかお聞きしたいです。

半沢教育長 入園時に資料を配ることは可能ですので、前向きに幼稚園とも検討していきたいと思えます。次の質問ですが、あくまでも現状における状態です。先ほど申し上げましたが、大川小の判決が確定してからは、これでは足りないと思えます。ただいまのご提案のとおり碧水園や、ありとあらゆる可能性を考えた防災計画を策定しなければいけないと思えます。これは第二幼稚園に限らず市内の小中学校を含め、県から近いうちに指針や見直しの観点などが提示されるだろうと考えております。それを参考にしながら、想定外だということのないように、子どもの命を第一に考えながら、見直していくと考えております。

小片氏 避難経路は、先ほど佐藤先生と弁護士村上先生にお話をいただきました。子ども達がパニック状態になった時に、泣き叫ぶとかあるわけですが。資料にある二園の避難経路を見て私が現場にいた時のことを思い出し、感じたことを申し上げます。第一幼稚園の避難場所は、園庭に子ども達を集めて、児童館、緑の教室に避

難させます。そこは常に子ども達が行って遊んでいるため、抵抗なく避難場所として使えます。図書館の職員も応援に来てくれます。ただ第二幼稚園の避難場所を見た時に、西側の門は常に閉まっています。実際この避難場所をご覧になっている方はどのくらいいるのでしょうか。実際見て作られたのか、先生方から出されたもので作ったのか。うさぎの家の非常口は常に閉まっています。通用門も常に閉まっています。第二避難所の幼稚園の駐車場に行くまでの道は、子ども達も常に行っているので慣れていますが、中学校に行くという訓練をどの程度しているのか分かりません。避難所として適切な場所なのだろうか、と考えていただきたいと思います。

山田市長 避難場所の指定について、実際に教育委員会として適切なのかについてお願いします。

高橋上席参事 資料につきましては、1ページの表は教育委員会で作成しました。安全管理について現状を把握する上で、各園の安全管理マニュアルがありますので、その資料と園長を中心に聞き取りをさせていただきました。教育委員会でも現場をしっかりと検証して、マニュアル通りになっているかを確かめてまいりました。今ご指摘の第二幼稚園非常口ですが、道路に面しているため常に閉めてある状態です。これは、第一幼稚園も同様ですが、不審者対策等ございますので、保護者の送迎の時間以外は、基本的には閉めているというのは幼稚園だけでなく、多くの学校等でもそのような対応をしているところです。非常口は紐で結んである状態ですので、何かあった場合はすぐにほどこいて、開けて避難できるような状況になっているのを確認してまいりました。中学校との連携については、先ほど佐藤先生からお話いただきましたが、これから話を進めていくと安全面だけでなく、幼児教育、子ども達のキャリア教育の部分でもすごく充実すると思いますので、今後前向きに検討させていただきたいと思います。

齋氏 避難の資料については、どちらの園も短所を長所にして、今いる子ども達を守ろうと安全管理を計画しているなど見させていただきました。私が以前職員室にいた時思ったのですが、職員室の場所が第二幼稚園では子ども達が見えません。廊下に立てば見えますが、比較した場合、第一幼稚園では子ども達の姿が見えます。不審者が玄関からやって来た場合、園長が対応しますが、すぐに子ども達にも伝わるようになっています。しかし第二幼稚園の場合は少し難しい場合がありました。日常の生活では短所を長所に捉え、門から子供が出ていかないか常に見ていられるのは長所です。

第一幼稚園会長 色々な意見を聞かせていただき、第一、第二幼稚園とも、長所は短所、逆もしかりというお話を聞き考えていました。先ほどの齋先生、小片先生のお話を聞き不審者対策のために第二幼稚園はどうなのだろうというニュアンスで、私は聞こえてしまいました。正直そのような話であれば、第一幼稚園も裏手にフェンスが一切ございません。小学校の校庭と第一幼稚園の敷地を遮るものは樹木のみになります。親としても不審者が入ってくることはあってはならないことだと思っています。今第二幼稚園は全てフェンスで囲まれている状態です。若干そういう点では安心はできます。今回の話が出た後、夏休みに第二幼稚園におじゃまし、園長先生とお話をさせていただきました。園舎の中を見せていただき、園庭の周りを

見せていただいて、駐車場の付近も全て見せていただきました。見てきたことを踏まえてお話をさせていただいています。職員室から子ども達の姿が見えた方がいいというお話でした。常に職員室に常駐されている園長先生達は、子どもの命を守らないといけない、というお話を退職した知り合いの先生方から聞く機会がありました。先生方には万が一不審者が、通った時に最初に飛び出たいただきたい。もちろん第一幼稚園も大好きですが、見取り図を見た際、図書館側は門扉がありますが、第一小学校の校庭側は何もない状態です。以前保護者の方とも話したのですが、池田小学校の事件で被告の話を聞いた方が、空いていて誰にもとがめられることがなかった。誰にも声を掛けられなかったからそのまま教室の中まで入り、事件を起こした。という話を聞いた時、誰かが必ず見える状況で、あまり入って来られない方が、子どもたちの保育をする上ではありがたいのではないかと強く心に思いました。火災や地震等の方は、教育委員会と有識者等の方で考えていただければと思います。不審者の件で第一幼稚園が好ましくないと言っているわけではないのですが、そういった危惧も皆さんの頭の片隅に置いていただければと思います。もし第一幼稚園を残すことになった場合、小学校との間に柵作ってほしくないのですが、防災の観点から、不審者が入って来られないようにするかというところには、重点をおいてほしいと思いました。

第一幼稚園副会長 安全管理についてよく考えられていて、実際去年の6月に第一幼稚園の避難訓練に参加いたしました。地震から火災が起きたという想定でした。先生達から子ども達に分かりやすい説明でした。子ども達が真剣に取り組む姿も実際に見て、すごくありがたいなという気持ちでした。私も第一幼稚園に通って長いのですが、資料を見て、避難場所とか初めて知ることもありました。保護者にも広く知らせてもらえればいいと思いました。

第二幼稚園会長 私も第二幼稚園に通って7年目になりますが、資料を見て初めて知ったこともありました。一番びっくりしたのは、白石中学校に避難をしていくことは全く知りませんでした。白石中学校に避難した場合の引き渡しの仕方が、全く分からないなと感じました。これから白石中学校と避難訓練の連携も考えていくということなので、こちらにまた発信していただけるのかなとは思っていますが。引き渡し訓練では、保護者がしっかり動線を確認して、迎えに行くということが重要なことだと思います。中学校まで迎えに行く方の動線をしっかり保護者に伝えていただければと思います。

第二幼稚園副会長 第二幼稚園の避難の仕方について、非常口は常に閉まっているから、その時になって対処できるのかというお話が出ました。安全管理の資料にある通り、避難訓練をやっている中で、幼稚園児も先生たちと一緒に、毎回非常口を通る訓練はしています。だから幼稚園児たちが不安になることはないと思います。私たち親も職員室の場所も含め不安に思ったことはありません。先生達が常に、園児と一緒に外で遊んでいる時も見守ってくれています。先生達を信じて任せている状態です。親として不安になることはないということをお伝えしたかったです。

山田市長 白石中学校に避難した場合の引き渡しや、保護者への周知について、現在その準備があるのか、今後の課題となるのか教育長お願いします。

半沢教育長 昨年10月の判決を受け、宮城県も学校防災を見直していくか検討中です。相当

厳しいものになるのだらうと思います。引き渡しをしたら、後は親の責任ですとはいかないと思います。引き渡すことを遅らせ、災害によっては学校に留め置くという選択肢も、取らざるを得ない状況になるというふうに思っております。お恥ずかしい話ですが、私が第二小学校に勤務していた時、引き渡し訓練をしました。当然保護者にもいろいろな事情があり、引き渡しに来られない方がいます。そしたら私が行った時には、子どもをそのまま帰していたのです。それでは避難訓練になりません。非常にお恥ずかしい話ですが、これが以前の学校防災でした。3.11の時私は石巻の学校に勤務していました。大川小学校だけが取り上げられていますが、引き渡し後に被災して命を落とされた子ども達がたくさんいます。そこから子どもの命第一と考えると、引き渡しをした方がいいのかどうかの判断を、今後学校に求められてくるでしょう。以前のような考え方ではいけないということになります。白石中学校との連携については、中学生の側からも大変いい効果があると思いますので、次年度は、第二幼稚園と合同で避難訓練を行うなど企画していきたいと思います。併せて、白石中学校から引き渡しをしなければいけない状況を想定して、動線の検討もしていきたいと思います。第一幼稚園につきましても、第一小学校とどう連携をとるのかも検討していきたいと思えます。

山田市長
小室委員

次に教育委員さんから何かございませんか。

先ほど佐藤先生から、中学生と幼稚園の子どもの関係についてアドバイスいただきました。私は以前、東中学校と白石中学校の校長をしていました。どちらの学校も幼稚園や保育所に職場体験させていただいていました。幼稚園の体験を金髪の子たちが希望し、心配で見に行きました。驚きました。表情が、全然違っていました。にっこりし面倒を見てくれていました。白石中学校、東中学校の生徒は幼児に対して、接し方を練習していますし、大丈夫だと思います。話は変わりますが、私は白石では、将来的に幼稚園から中学校まで一貫した教育をしてほしいなど、そうなるようにと教育委員になりました。また、白石中学校の校長の時、第二幼稚園から白石中学校までの避難訓練をしたことがあります。第二幼稚園の園長からその話を受けました。白石中学校の校庭に入るところに重い扉があるのですが、それを開けるのが私の仕事でした。年に一回くらいはその訓練をしていました。

岡崎委員

安全管理については日ごろの訓練が大切なのかなと思います。佐藤先生が先ほど気仙沼の児童の、トラウマは良くないけれどリアリズムの追求として、音を鳴らしたりする訓練をしているというお話をされました。子ども達はそれに対応できているのかなと。障害児の子たちにはすごくいいなとは思ったのですが、どうなのかお伺いしたいです。

佐藤教授

気仙沼市立大谷幼稚園では、障害を持った子はいなかったように思います。私も経験値はないのですが、気仙沼の場合は毎月行っています。もう一つは、最近どこの幼稚園、保育所でもやっていることですが、ドキュメンテーションです。避難訓練の様子を先生方が毎回携帯で写真を撮って、子どもが自分達で指差しができる目の高さの、パブリックスペースに視覚情報として、吹き出しを付けてその時の子どものつぶやき等を付けて、子ども達の防災訓練の履歴として貼ってある

のです。子ども達はそれを見ながら反すうしているのです。常日頃からドキュメンテーションを指さしながら、子ども達同士で話をしているのです。訓練を訓練のまま終わらせるのではなく、記録を作り子ども達の目に触れるところに置くことで、教育効果を高めています。リアリズムを追求しながら、学習環境のように繋げていく工夫をされていました。あまり怖がらせても、防災訓練があるから幼稚園に行きたくないと言われると困りますので。先生、保護者、子ども、地域との信頼関係の中で上手にやっていく、まさにプロフェッショナルリズムは必要です。気仙沼は一步先にそのことをやっていました。

小片氏 避難経路について皆さんのお話をいろいろ聞いたところですが、この会議の一番重要なことは、白石市の幼児教育の充実ということで、第一幼稚園、第二幼稚園のうち、第一幼稚園が休園になるということで、第三回目のこの会議が開かれているわけです。いろいろな話し合いが必要なことは承知しています。でも時間もなく差し迫っています。この場は結論を出す場ではないのは分かっています。論点のところの確信に、もう少し貴重な時間を割いていただけたらと思います。そのように望みます。避難経路もよく分かりました。引き渡しについて園で対応するのでこれから考えればいいと思います。

山田市長 本市としては、幼児教育は重要だと思っています。さらにどのようにすれば推進できるかというために、様々なご意見を皆様にはいただいているところです。この会議は論ずるという場ではございません。様々なご意見をいただき、それを踏まえて教育委員さんに再度、本市の幼児教育がどうあったらさらに良くなるのかを、教育委員さんが論ずるのだと思います。

小片氏 避難経路や大川小学校のことも分かりました。二階建てが危険だということで第一幼稚園が休園と言っていますが廃園ですよ。子どもの数も少ないので休園から復活することは考えられません。第一幼稚園を残す会を立ち上げた一人として、第一幼稚園の良さというか、どうして第二幼稚園を選んだのか、その疑問がずっと残っています。11月に中央公民館で行われ説明会で、第二幼稚園がいいという理由で、敷地が広いなど3つの理由が挙げられましたが、全部が当てはまらないのではないですかとお話をしました。そのことは検討されないまま、ずっときているのを感じます。私の中でこれだけは分かってほしいことは、地質の問題です。第二幼稚園の敷地は田んぼでした。こういうところに幼稚園が建つのかと心配していました。土地が広いという点ですが、実際園庭は、第一幼稚園より狭いです。なぜかという土地の真ん中に建物が建っています。第一小学校、第二小学校の就学率の違いから第二幼稚園が選ばれたということにも疑問を持ち質問しましたが、回答いただいております。第一幼稚園の園舎の問題ですが、障害のお子さんの問題も現在はあります。私は両園で働いていました。第一幼稚園建築の時、子ども達の安全を第一に考え造りました。ここの土地は白石で一番地盤の固いところだからそういう意味では安心だよ、二階建てだから園庭も広いね、とみんなで喜んでいました。二階の柵も子どもの手が届いても大丈夫なように付けました。細かなところに配慮してきました。教育環境では、第二幼稚園は周りが住宅です。第一幼稚園は児童館、図書館があり、緑の教室に行って虫取りをしたりできます。第一小学校の鉄棒で遊んだりしていました。避難所にする

といった場所も遊び場になっています。親たちの送迎の状況も、幼稚園が建っている周りの現状を考えてこれから決めていただきたいです。親の送迎も現在は車です。幼稚園は手をつないでいろんな景色を見ながら来るのが、一番の子どもを育てる基本の姿だと、私はずっとそういう思いでいました。地盤環境ということで幼稚園の在り方を考えていただきたいです。子どもが少ないから第一と第二を合併しようという考えは分かります。そのやり方を真剣に考えていただきたいです。

長年幼児教育に携わらせていただいています。子どもの教育も大事ですが、今はお母さん、お父さんの教育も大切です。白石市の幼児教育の在り方を考えてもらいたいです。

山田市長 本日で三回目の会議になりますが、皆さん真剣に考えていただいています。貴重なお話を伺っています。真摯にさまざまな角度からどうやったら子ども達の、幼児教育の環境を今後よりよくしていけるのかという観点から、お話をいただいています。私はどの話も核心だと思っています。どの話も非常に重要で、それらを踏まえて最終的に総合教育会議を閉じて、今後教育委員さんの方でさらに議論を深めていただくことが次の段階だと思っています。

第二幼稚園副会長 前から話が出ていることで、第一幼稚園のいいところもいっぱいあると思います。私達第二幼稚園に通わせている親としては、第二幼稚園のことを否定されると結構心が痛いです。毎回心を痛めて、大きなストレスを抱えて家に帰っています。両園ともいいところはあります。それに伴って、幼児教育をいかに良くしていくかという会議ですので、とても大事だと思っています。最終的な判断を教育委員会にもらうための会議だと思っています。時間もないので、もっといろいろプラスになること、私たちが分からないことが多いので、いろいろな話を聞けていければいいなと思います。

第一幼稚園会長 先ほどの話を聞いていて思ったのですが、昔と今はだいぶ変わってきたと思います。物価だけを見ても、私が生まれた年は、チョコレート一枚50円でした。今は100円を超えています。世の中も働く親が増えてきて、本当は自分達で育てたい、自分達で手を引いて歩いて幼稚園に連れていきたい。保育園に連れていきたい。そういった親御さんが生きるために必死に働かなければならないのです。だから子ども達と一緒にいける時間は惜しいけれども、働くために、子ども達を元気に健やかに育て上げるために、車の中でもなんとかできることをしてあげようとしているのが現状です。一番最初の原点に立ち返らせていただくと、私達幼稚園の保護者としては、一時預かりの延長等を行ってほしいことと、環境は今現在、第一幼稚園、第二幼稚園に通っている保護者も、それなりに満足しています。一番危惧しているのは、今回の騒動が起こって、公立幼稚園に対して、またこういったことが起こるのでないか。また統廃合になってしまうのではないか。廃園になってしまうのではないか。だったら公立幼稚園に入れない方がいいのではないか。できれば私達も入園から卒園まで、一貫して同じ園舎の中で先生達に見守られながら、やっただけなのが子どもにとっても親にとってもいいことだと思っています。でも今回蓋は開いてしまいました。本来であれば、保護者に話をさせていただいてから決定していただけるのが、筋だと思っています。そこに関しては、両園の保護者とも納得

できていない状況です。私達も子ども達も前に進んでいかなければなりません。どこかで折り合いを付けなければいけません。巨泉会長からできれば障害児が入園した時、やさしい園舎であってほしい。平屋建ての方が何かあった時にパニックになって飛び降りたりする危険性もない。専任の先生がついてサポート体制がとれるのであれば、一園になってもいいというお話でした。正直どちらの園でもいいのです。ただ悪しざまに第二幼稚園が言われるのであれば、その欠点の部分を全部補ったのであれば第二幼稚園でもよろしいのではないのでしょうか。私達はそこが聞きたいです。第一幼稚園に通わせているのですが、第二幼稚園が悪しざまに言われているのを聞いているのは、胸が痛いです。せっかく大学の先生、弁護士の先生、有識者の方からお話を聞ける機会なので、もっとこれからの幼稚園に必要なもの、幼児教育の充実を図ることは小学校教育の充実につながると思います。例えば第一幼稚園を休園することは、建物をそのまま残すことだと以前お話を聞きました。第一幼稚園を卒園した子は第一小学校に多く通っています。その子たちが下校する際、草が伸びて荒れている校舎を横目にするのは、精神衛生的にどうなのかと危惧されます。第一児童館も老朽化しています。収容人数がいっぱいで、今年は、小学校6年生は長期休暇中に限りお預かりしますという話でした。もし第一幼稚園が休園になり使わなければ園舎が朽ちていくので、共有化していくこともいいのではないのでしょうか。その点に関して教育委員会等で、幼児教育と小学校教育の繋がりについて教えていただければと思います。

山田市長

佐藤会長の話を聞いて、関連してご発言のある方いらっしゃいますか。

佐藤（敏）委員

教育委員ではおおむね3年に1回、小、中、教育関連施設を毎年現場の視察をします。私は教育委員をして長いので両幼稚園とも4回程度視察しています。私の本来の職業は、建設会社勤務です。公園の遊具は、国土交通省所管で、市では都市整備課で毎年チェックして壊れたところを補修しています。幼稚園も含めた学校の遊具はしばらくチェックしていませんでした。途中で事故があったため、国土交通省が示した基準をそのまま文部科学省が受け入れました。木製具の対応年数は5年程度、金属性の物も毎年チェックしています。それが始まって6年くらいです。一般の公園は以前から行っていました。保育園と小学校の遊具では物が全く違います。保育園や幼稚園では限られた人しか使用しないため、強度が弱くなっています。一般の公園はいろいろな人が乗るため強度が強くてできています。使う遊具によって間隔の取り方がルールで決まっています。昔は狭く作られていました。先生方にもチェックしなければいけないというルールがあります。現在は毎年業者が、チェック、修理、取替を行っています。以前は木製具がたくさんありました。設置年数から経過年数を記録簿にとって、先生方が日常点検を行っています。私の目から見てもちょっとという感じでした。全国遊具施設業協会が出したマニュアルを元にチェックしました。もし遊具を使った事故があったら、現在なら大きな責任をとらないといけません。学校によっては使用禁止にしているところもあります。

小室課長

遊具の件ですが、専門の業者を6、7年前から入れて、超音波検査、触診をしながら、金属疲労や摩耗などを確認し、危険な箇所はすぐ修理しています。

小室委員

私は中学校の教員を長くやっていました。卒業生の同級会によく行っています。今年の新年の集まりでは同じテーブルに同級生10名がいました。そのうち8人は白

石以外に住んでいました。職場は白石なのになぜだと聞いたところ、子育てが一番の決め手と言っていました。白石の幼稚園の問題がありますが、どちらにするのかよりも中身を考えて、それを実現し、白石に住みたい、白石で子育てしたい、そうなるようにしたいと思っています。今回保護者の方のアンケートもじっくり読ませていただきました。自分が気づかなかったこともたくさん書いてありました。例えば、幼稚園の行事が平日に多いということでした。中学校は土日に行っていました。そういったことに応えられるような幼稚園にしていきたいと思っています。幼稚園の時からALTに簡単な英語を教えてもらってというのを希望しています。

齋氏

佐藤さんの話を聞いて納得することがありました。今子育てしている親やお子さんに対して安心して入れる幼稚園だったらいいのにと思いました。この問題によって入れることが心配とならないようにと懸念しています。早く決着してほしいと思います。際ほどの防災の件で、第二幼稚園は不審者がきたときにフェンスがあつて入りにくいということには頭がいきませんでした。逆に玄関で不審者が来た時に遊戯室という、行き場のないところに逃がして大丈夫かなと思っていました。どちらの園のご父兄も園に対して満足しているという話を聞いて、うれしい思いでした。この会議でマイナスの方向に思いがいくのでは逆なので、今の子ども達を大事にしながらかえていただければと思います。小片先生がお話したことも分かります。第二幼稚園を悪しざまにしているではありません。どちらかを選ぶとなったときに、この思いがあふれ出てくるのは分かります。お母さん達の話で今満足しているという話を聞いて、どちらの園の先生も頑張っていることも分かりました。この会議を持って決めるということをして市長も教育長もおっしゃっていたので、4千名の署名した方の思いを背負ってこの場にいるので、私もストレスを感じています。そのような思いも考えていただきたくようお願いしたいです。

疋田氏

私も3回の会議を通してずっとストレスを感じていました。第一幼稚園と第二幼稚園を分断するために、こういうことをしたわけではないことを理解してください。今回の件は、教育委員会と教育長への不信感が先立ったことで起きたことだと思っています。さまざまな意見があつたにもかかわらず、本来であれば考え方委員会や、どちらを残すのかをPTAの皆さんを交えた、事前のこういう会議があつて意見聴取をした上で、園へ伝えれば、一番このようなことが起きなかったのだらうと思います。決定したことに対して後から資料を出して、結局最終的には後手後手で検討せざるを得なくなっているということは、初動が間違っていたわけです。なぜそのようなことをしたのかは未だに疑問です。佐藤会長がおっしゃったように、前に進まないといけないし、この問題は決着をつけなければなりません。十分承知していますし、そのとおりです。教育委員会の皆様、教育長、教育委員の皆様方一人一人が今回の件を、中立公正な目で判断していただきたいです。文部科学省が示す教育委員会の制度は、政治的中立性の確保ができていて、継続性、安定性の確保ができていて、地域住民の意向の反映ができています。そのためにレイマンコントロールということで、委員の皆様一般の方が混じっているのです。市民、親の代表として委員になっているということだと思っています。さまざまな意見を集約して、より良い幼児教育、幼稚園教育、白石の教育がいい方向に進んでほしいというのは、切なる想いです。私は総合教育会議録を調べました。平成27

年度から法律が変わり、教育委員会の委員長がなくなり、教育長制度と市長だけの形になった時に、初めて総合教育会議を行い毎年やっているわけです。今回で8回目の総合教育会議になるわけです。ここでお願いがあります。せっかくの市の総合教育会議ですので、本来の原点に立ち返り、委員の皆様にも今回の件の感想や、想いを話していただきたいです。本来的に、総合教育会議は、市長や教育長や委員さんがいろんな話を、意見を出し合って話し合うための場です。ところが今回は、いろんな会の人たちの意見が言い合いになっていて、好ましくないと思います。本来の会議のあり方ではないと思います。今後教育委員会で、本当の議論をしていただきたいです。教育委員の皆様のご信頼を取り戻すためにも、皆様から一言でよいので、今回の件の感想等を言っていただければと思います。

山田市長 それでは、教育委員さんから一言ずつ感想をお願いいたします。

佐藤（敏）委員 感想ではないのですが、私が常日頃思っていることをお話しします。通常は、事務局から提案いただきます。教育長を含め5人の教育委員がいますが、任期がそれぞれ違います。私は職務代理人という立場で、会議を進める役目です。直接意見を述べず、皆さんの意見を聞いて、一部私の感想も入れますが、そういったスタンスで会議を進めています。例えば、昨年承認した件を問われれば、現地も見ています。地盤の固さを示すN値で言えば、白石は、中央公民館から白石中学校の北側より南側のN値が少し柔らかい目ですが、現地を見てベストな結論を出しました。私はこうなることは全く想定していませんでした。こればかりを教育委員会で審議しているわけではなく、平均すると1回の会議で12、3件の案件が出てきます。それを、毎月こなしています。それぞれの知見は違いますので、結論を求められれば出していくという形です。決して一つの議題だけをやっているわけではありません。限られた時間の中で、結論を出さなければなりません。そのために説明も求めます。意見を集約して結論を出します。私としては、決して間違ったという認識はございません。

佐藤（よ）委員 私も最近の少子化に伴って、園児の数が減少しているという現状を聞きまして、より良い幼児教育が必要だという考えのもと、話し合いを進めこのような結果になりました。今後は、一園にしてさらに充実していくことは必要なのかなと思われました。今まで3回の会議で、皆様からいろいろな立場、いろいろな観点から、気づかなかったことも気づかせていただきました。この経験をもとに、今後の話し合いの中で議論を深めていきたいなと思っています。

岡崎委員 私は、中学校と小学校の娘がいる保護者枠として教育委員に入っています。保護者の皆様と近い立場なのかなと思っています。会議の中では、教育に関してすごい知識を持っているわけではないので、保護者目線として、子どもが今後、どうやったらいろいろな可能性を持って、開花できるのかというのが大事だと思い、どうやったらいいのかを、皆で話し合っていきたいと思っています。

小室委員 私は去年の7月1日から教育委員になりました。自分が考えていることは遠慮せずに、全て教育委員会議の中で話しているつもりです。事務局の案と違う考えも言っていますし、何を話しているかは議事録を読んでいただければと思います。これから先も私は、自分が教えた教え子達に顔向けできないようなことだけは、したくないと思っています。これから若い人たちが、白石に住みたい、白石で子育てしたい、白

石の小中学校に入れたいとなるように、自分の思ったことを話していきたいと思えます。その結果、辞めろと言われたらいつでも辞める決意はできています。私自身もそんなことできない、と思っただけでも辞めようと思っただけです。

半沢教育長

私は教育行政を預かる立場にあります。私が一番考えているのは、日本の教育は今改革期にあります。地方といえども、10年度、15年後を担う子ども達に、どう力をつけていかなければならないかということは、都会だから、田舎だからという問題ではないという認識でいます。小中学校の子ども達の学力だけでなく、それを支える力等も考えていくと、大きな課題があることが分かってきています。それに一刻も早く対応するため、社会性の問題、協調性の問題、学習を支える力になりますが、ここに本市の子ども達は大きな課題を持っています。幼児教育は、今回の無償化の中でもあまり議論されていません。幼児教育は重要だという観点から、先ほど小室委員のALTの話が出ましたが、国際化にマッチングするような子ども達を育てていくために、ALTを増やして幼稚園にもというようなことを考えています。これから様々な形で本市の幼児教育を充実させていきたいです。もう一つは、保護者の皆さんのライフスタイルが大きく変わっています。ここにどう風、行政として対応していくのかという観点は、非常に重要な視点だと思います。選ばれる幼稚園、選ばれる小学校、中学校ということを考えると、共働きの方が非常に多い現実も無視できません。現役の保護者のニーズの変化に対応していかないと、市立幼稚園が選ばれなくなるという危機感を持っています。市内でも認定こども園の話も出ています。定員を拡大した保育園の構想もあります。その中で、親方日の丸だからいいという感覚ではなく、ぜひ市立幼稚園はこうだから、こんなサービスも受けられるからという決意で、一刻も早く進めていきたいと思っただけです。当案件は、教育長の職務を定めた法律、規則に基づいて一般事務、専決事務に当たる項目です。今回議会で請願が採択されたことを真摯に受け止め、委員さんの声もお聞きしながら、通常の事務の進め方とは違う形で、進めていきたいと思っただけです。ありがとうございます。最終的に委員の皆さんと教育長の発言が聞きたくて、総合教育会議を開かれることで、いろいろな資料を読み込ませていただきました。白石市の教育委員会は、きちんとやっているし、熱心だし、真面目に一生懸命議論されているなというのは、肌で感じてきました。そういう意味では、そういうことを知る機会にもなりました。一方で、なぜ幼稚園の問題だけ拙速に決めたのだろうと、疑問で悲しかったです。今教育長がおっしゃったように、今回の件は教育委員会の定例会の中できちんと、議論を通して決定します、という発言をいただきました。私はそうしていただきたいし、中立、公正のもとで、フラットな目で委員の皆様一人一人議論していただき、決めていただければというのが、切なる願いです。それが叶えば、第一幼稚園、第二幼稚園というところの話ではなくなると思います。誠実な話し合いが必要で、市民や保護者への寄り添いのもとでなされていただければ、一番いい方向に進むと思います。それだけ最後をお願いしたいと思います。

疋田氏

佐藤（敏）委員

私は、定例会の進行役という役に就いている関係で、今回の3回の総合教育会議、佐藤先生、村上先生をはじめ、関係者の皆様にご意見を言っただけで、詳しく知ることができました。大変貴重な意見をいただきまして、今後いただいたご意見を踏まえて、事務局サイドから、提案、進め方など示されると思います。今まで以上

に教育委員として前向きに、検討を進めてまいりたいと思います。よろしくお願
いしたいと思います。ありがとうございます。

山田市長

それでは、1月、2月、3月と3回総合教育会議を開催いたしました。これまで皆
様から大変貴重なご意見をいただきました。先ほど疋田さん、齋さん、小片さんか
らもいただいた素晴らしいご意見を参考にして、ぜひこれからの教育委員の会議
で、慎重な議論をしてほしいとご発言がありました。総合教育会議は本日をもって
閉じさせていただきます。今後の進め方は、教育委員の皆様で、本市の幼児教育の
更なる充実を、議論していただくという方向で進めたいと思いますが、皆様よろし
いでしょうか。

出席者

(はい)

山田市長

ありがとうございました。皆様にご理解とご協力をいただきました。もう一つお話
しさせていただきます。先ほど疋田さんからの話しにもありましたが、総合教育
会議はこれで全て終了というわけではございません。今後その都度、教育委員さん
から様々なお話を聴きたいと思います。今後も総合教育会議を必要に応じて開催し
ていきたいと思っています。改めてこの3回の総合教育会議、皆様の多大なるご支援と
ご協力をいただきましたことに、心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

半沢教育長

市長から、教育委員会の会議で議論してほしいというお話がありましたので、今後
この問題を教育委員会の定例会等を通して、協議していきたいと思っています。現在も
凍結中ですので、慎重なる議論を重ねて一定の結論を出し、設置者である市
長とも十分に、総合教育会議等を通して、意見を言っていたきながら、進めてい
きたいと思っております。本当にありがとうございました。

山田市長

最後になりますが、今後は教育委員会の場で、ご検討をいただくという方向で進め
ていきたいと思っています。本日の会議はこれで終了させていただきます。皆様誠にあ
りありがとうございました。

小室課長

閉会にあたり半沢教育長よりご挨拶申し上げます。

半沢教育長

3回にわたりまして、大変貴重なご意見をたくさんいただきましてありがとうござ
いました。今後、教育委員の皆様と共に、結論ありきではなく、もう一度議論を重
ねた上で、決めていきたいと思っております。本当にどうもありがとうございました。
心より御礼申し上げます。